

## 2018年度事業実績

2018年度においては、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、地域貢献活動を柱として諸活動を展開した。

### 1 教育活動

#### (1) 教育方針

個々の学生に応じたきめ細やかな支援を行いながら、学生の向学心意欲を喚起し、より高く幅広い知識や技能を修得させるとともに、コミュニケーション能力を身に付ける教育を実践し、学生の満足度を高める教育に努めた。

#### (2) 教育活動

大学・大学院 670 名、短期大学 217 名の計 887 名の在學生(2018 年 5 月 1 日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

- ・総合人間学部言語文化学科では、海外体験科目の充実を図り、助成金を活用して海外体験をさせ、異文化に関する知識や適応能力を身に付けさせた。また、生活心理学科で基礎学力向上プログラムを実施し初年度教育の充実を図り、専門教育へ円滑な移行と学修の効率化につなげた。
- ・地域マネジメント学部では、1 期生を受け入れ、「アグリ」、「ものづくり」、「商い」、「地域政策等」の各種領域に関わる学びを通して基礎知識を身につけながら、学んだ調査の方法論を活かして、学外の実践活動に結びつけた。
- ・看護学部では、入学前教育や初年次教育から専門教育、国家試験対策、就職支援までの一貫した教育を行い、看護師国家試験合格 100%を目指したが、90.8%であった。
- ・助産学専攻科では、幅広く確かな知識、高度で質の高い技術の修得に取り組み、3 年連続、助産師国家試験 100%合格を達成した。
- ・大学院看護学研究科では、看護学の動向や最新情報を取得するため学会に参加し、院生 1 回、教員が 19 回の学会発表を行うとともに、学内では、老年・成人・コミュニティヘルス看護学領域の教員が共同・協力した教育研究活動に取り組んでいる。
- ・食物栄養学科では、解かる喜びを実感できるように、フードモデルやパワーポイント資料などの視覚教材を積極的に活用するとともに、学生が主体の学びとなるようにアクティブラーニングを取り入れ、栄養士としての専門知識や技術を確実に修得させた。
- ・幼児教育学科では、保育者に必要なピアノ演奏能力や文章作成能力などの確実な修得のため、補習時間を設定し自主練習させるとともに、子育て支援能力を養うため、附属幼稚園での実習活動を積極的に進め、実務能力と実践力の向上に重点を置いた教育に取り組んだ。

#### (3) 就職支援の強化

- ① 就職率の向上のため、キャリアセンターと各学科との緊密な連携のもと、学生と一対一の面談を重ね、個々の学生に応じた対応・指導を行い、全学科で就職率 100%を達成した。

#### 学科別就職率（5月1日現在）

- ・総合人間学部：言語文化学科 100% 生活心理学科 100%
- ・看護学部：看護学科 100%
- ・短期大学：食物栄養学科 100% 幼児教育学科 100%

- ② 早い時期から就職意識を醸成するため、保護者や在学生を対象にした「就職懇談会」や「就職支援バス」、「卒業生による業界説明会」また専門職を対象にした「保育士合同面談会」、「栄養士等業界説明会」、「実習病院就職説明会」等の就職支援活動を実施した。

（参加者数）

就職懇談会(保護者)	64名	保育士合同面談会	107名
就職支援バス	23名	栄養士等業界説明会	40名
卒業生による業界説明会	38名	実習病院就職説明会	87名

- ③ 「社会人入門」、「インターンシップ」、また県内優良企業と連携した「企業協働型ラーニング」を開講し、就職支援科目の充実を図った。
- ④ 就職先企業を中心に企業訪問し、情報交換を行うとともに、卒業後3年を経過した卒業生及び就職先企業に対するアンケート調査を実施し、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努めた。

#### （4）退学・除籍者数

887名の在学生のうち、27名が退学あるいは除籍となった。

- ・大学院看護学研究科0名（0%）
- ・総合人間学部言語文化学科8名（5.1%）/生活心理学科4名（3.0%）
- ・地域マネジメント学部地域マネジメント学科2名（4.8%）
- ・看護学部看護学科5名（1.6%）
- ・助産学専攻科0名（0%）
- ・短期大学食物栄養学科4名（4.2%）/幼児教育学科4名（3.3%）

退学の主な理由は、進路変更、精神的・身体的理由、経済的困窮などであった。

退学が懸念される学生については、教授会でも対応策を協議し、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、一人ひとりへの丁寧な対応に努め、修学意欲の維持・向上等を図った。

#### （5）学生募集活動

全ての教職員が本学の“強み”を共通認識して募集活動を展開するため、訪問用QA、入試結果、就職状況等の資料を充実させ、事前研修で情報の周知徹底、共有化を図った。

高校生に加えて幅広い層に向け、TV、新聞、インターネット等を用いて集中的に広告を発信し、認知度や親近感のアップに努めた。また、オープンキャンパスは、参加者の興味を引き、よい印象が残るように、自由見学時間や生徒・保護者別の説明時間の設定など、新しい内容を加えて充実を図った。さらに、当日の協力学生への指導を統一的に行い、全学的な「おもてなし」の接遇の醸成に努めた結果、参加者の本学への好感度につながっている。

平成31年度入学生として、大学201人、短大129人、大学院2人、助産学専攻科7人の学生を確保した。

- ・総合人間学部：言語文化学科41人（136.7%）/生活心理学科35人（116.7%）

- ・地域マネジメント学部地域マネジメント学科 41 人 (68.3%)
- ・看護学部：看護学科 84 人 (105.0%)
- ・短期大学：食物栄養学科 58 人 (72.5%) / 幼児教育学科 71 人 (71.0%)

## 2 研究関連事項

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心的に活動を行った。

- ① 研究成果を積極的に公開するため、47 名の教員が論文発表 84 件、学会発表 100 回の計 184 回の発表を行った。
- ② 学内競争的研究費の配分については、教育改革公募研究支援経費 (1 件 20 万円) として 3 件、学内研究補助金 (1 件 30 万円) として 21 件、計 690 万円の配分を全学的に行った。これらの研究成果報告書の取りまとめは、山陽論叢に掲載するなど公開を進めている。
- ③ 競争的外部資金獲得については、科研費を 9 件 7,467 千円の補助金を獲得した。また、平成 27 年度から引き続いて教学事項の見直しを実施しつつ、「私立大学等改革総合支援事業」の申請を行い、タイプ 1 の「教育の質的転換」に採択され、教室の視聴覚機器などの整備を行った。

## 3 地域貢献関連事項

### (1) 大学・短大が主催・共催する連携事業

- ① 公開講座は、「家族でふれあいキッチン」、「フレイルに立ち向かおう」、「こどもの育つみちすじ」をテーマに 3 回開催し、公開講演会は、「古美術鑑定入門」をテーマに実施した。
- ② 学友会・クラブ関連では、「さんぱと隊」が犯罪防止、「ボランティアサークルアイ」が西日本豪雨災害支援や犯罪被害者支援などの活動を行った。
- ③ 全ての学科において、地域連携事業に取り組み、看護学科では平井学区で健康測定、生活心理学科は笠岡市大島地区との連携事業、食物栄養学科は「オレンジカフェ」への学生派遣、幼児教育学科では「子育て支援」などの活動を行った。

### (2) 学生のボランティア参加延べ人数

学生の自主的な活動をはじめ、学友会・部長会・サークルとしての取組などで延べ 516 人が参加した。

## 4 大学運営関連事項

- (1) 合同会議を月 2 回開催し、学内情報の共有と教授会等の各種会議体や事務局各部署との連携を図り、柔軟で迅速なガバナンスを確立するとともに、大学運営の改革改善の推進に努めた。
- (2) 短期大学の改革に関しては、3 年コースの設置に関して、教学面、管理面での検討を重ね、新たな学びのスタイルとしての受け入れ準備を進めた。また、3 年コース設置を契機に学科名称を「健康栄養学科」、「こども育成学科」に変更することを決定した。
- (3) 山陽スピリット推進室を中心に、山陽学園大学、短期大学に所属するすべての学生・教職員の帰属意識を高めるとともに、「愛と奉仕」の精神に基づく教育を実践していることを学内に徹底し、マスコミ等を通じて学外に向けて広報した。

- (4) 教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD (Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み)、SD (Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み) を5回実施した。
- (5) 教職員の健康管理・健康増進・安全確保に努めるとともに、心身の健康状況を把握するためのストレスチェックを実施した。
- (6) 学生による授業評価をもとに教員表彰を行うなど、教員のモチベーションの向上に努めた。
- (7) 英検、TOEIC 等の試験会場として本学を提供することにより、高校生等の本学に対する認知度の向上に努めた。

## 5 山陽学園短期大学附属幼稚園

- ・ 園内外の自然を遊びに取り入れるとともに、幼児の気付きや心の動きを大切にとらえながら、心を育てる指導を行った。幼児の興味・関心を惹く環境づくりをしていくことで、苦手なことや難しいと思われる活動にも根気強く挑戦していく幼児が多くなった。
- ・ お茶会、陶芸や餅つき会などのイベントを通して地域の方々と交流を深め、地域や家庭との連携を深めることができた。学内では、看護学科の学生による身体測定の実施、食物栄養学科による給食を通しての食育指導、幼児教育学科のオペレッタの音響の録音協力など大学・短大と連携により、教育の充実に努めた。

<b>【定員の確保】</b>	
1. 2019年度の入学定員を100%確保する。	大学 (2019年入学) 100.5% 短大 (2019年入学) 71.7%
2. 志願者数の合計を20%増やす。	(2019年入学)602人 前年度比117.8%
3. 志願度の高い特推、一推、AO入試による入学者を220人以上確保する。	(2019年入学) 248人
4. 山陽女子高からの入学者を50人以上確保する。	(2019年入学) 43人
<b>【教育の充実】</b>	
5. 中途退学者・除籍者の割合を3.0%以下にする。	3.0%
6. 全学生のGPA平均値を2.4ポイント以上とする。 ※GPA値=(授業科目の単位数×授業科目の評価点)÷授業科目の単位数	(前期) 2.4 (後期) 2.3
7. 学生による授業評価が3.9ポイント以上の授業の割合を90%以上とする。(専任教員の授業)	(前期) 94.5% (後期) 84.7%
8. 学修成果発表の機会を各学科で2回以上設定する。	66.7%
9. アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が80%以上になるようにする。	57.2%
<b>【資格取得の推進】</b>	
10. 看護師国家試験の合格率100%を達成する。	90.8%
11. 保健師国家試験の合格率100%を達成する	35.3%
12. 助産師国家試験の合格率100%を達成する。	100%
<b>【希望する就職の実現】</b>	

13. 全ての学科で就職率を 100%にする。	言語 100%、生活 100%、看護 100%、食栄 100%、幼教 100%
14. 専門職への就職率を 80%以上にする。[食栄]	76.1%
専門職への就職率を 95%以上にする。[幼教]	82.4%
<b>【研究活動の活性化】</b>	
15. 外部資金（科研費等）を 15 件以上獲得する。	9 件 7.467 千円
16. 全ての教員が論文等の発表 1 件以上又は学会発表 1 回以上を行う。	59.5%（47 人）
<b>【地域連携・地域貢献の推進】</b>	
17. 大学・短大が主催（共催）する地域との連携事業を 20 件以上実施する。	45 件
18. 学生のボランティア参加人数を延べ 200 人回以上とする。	516 人回
<b>【その他】</b>	
19. パブリシティによる情報発信を年間 100 件以上行う。	149 件
20. 図書貸出冊数を学生一人当たり 15 冊以上とする。	12.1 冊